

## 近畿大学生物理工学部新入生のプレースメントテストスコアの分析

長谷川 由美<sup>1</sup>

### 要旨

本調査の目的は、2012年度から2016年度の入学生が入学直後の4月上旬に受けた英語プレースメントテスト(G-TELP)<sup>①</sup>のスコアの変化の傾向を把握し、今後の英語関連科目のカリキュラム、テキスト選定などに役立てることである。5年間の初年次英語プレースメントテストのスコアを分析した結果、学部全体では平均点は3点ほどの伸びが、中央値は120点台から140点台へと大幅な上昇がみられた。しかしながら、平均的な英語レベルはおおよそ中学卒業レベルから高校初級レベルぐらいであり、中学卒業レベルに満たない英語力の学生がかなりいることがわかった。現在、上位クラスのみならず少人数クラス制を実施しているが、今回の調査結果を踏まえ、基礎英語教育にも積極的に取り組む必要があるだろう。

キーワード：英語プレースメントテスト、G-TELP

### 1. はじめに

本学部の学生は在学中に2度のプレースメントテストを受験することになっている(2016年度4月現在)。1度目は入学直後の4月上旬に実施され、このスコアは1年次の習熟度別クラス編成科目である総合英語1・2、基礎英語1・2、オーラルスキル1・2のクラス分けの資料として利用されている。2度目は1年生の12月上旬に実施され、このスコアは2年次の理系英語1・2、総合英語A・B、オーラルスキル3・4のクラス分けの資料となる。また3年生対象科目である理系英語3・4(コンプリケーション)と(プレゼンテーション)、大学院入試を視野に入れた理系英語応用も習熟度別クラス編成であり、2年次の12月にプレースメントテストを受験した学生のみを受講生対象としているが、この2年次のプレースメントテストは戦略的研究<sup>②</sup>の経費により実施されているものであり、学部として実行されているテストではない。この研究の期間終了後の2年次のプレースメントテストの実施については現時点では未定である。

上記のようにG-TELPの結果をもとにしてクラス編成を行っている科目は複数あるのだが、直近5年のG-TELPの結果を現在すでに行っているテキスト選択やクラス設定のみならず、さらなる有効活用の可能性を考えるために本調査を行うことにした。

### 2. プレースメントテストの実施例

近年、英語のプレースメントテストを実施し、その結果を習熟度別クラス編成や英語学習の動機づけなどに活用している大学が増えてきている。プレースメントテストの種類は様々であるが、世界で数多くの受験者がいるTOEFL、TOEIC、TOEIC Bridge、G-TELPなどを使用している大学もあれば、独自のテストを作成している大学もある。

例えば、愛知大学名古屋校舎では独自に開発されたテストの結果をもとに、通常クラスよりも定員数が

---

原稿受付 2017年7月16日

1. 近畿大学生物理工学部 教養・基礎教育部門、〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷 930
2. 生物理工学部戦略的研究「生物理工学部量的データに基づく英語カリキュラム開発の試み」、課題番号13-II-2、研究代表者：服部圭子

少ない発展クラス（上位層クラス）と基礎クラス（下位層クラス）の選抜を行っている。その結果、発展クラスにおける教育効果は懐疑的ではあったが、基礎クラスでは教育成果があったと報告されている（石原、2012）<sup>(2)</sup>。

また、和洋女子大学は TOEIC Bridge の結果を利用して習熟度別クラス編成を行うと共に、学生の英語能力の実態を把握し、英語の授業の改善に生かしている。2009 年度の新入生のリスニングパートの得点がリーディングパートを上回っていたことから、入学後の授業でのリーディングスキルの強化に重点を置くことが提案されている（河内山、2010）<sup>(3)</sup>。

本学部においてもプレースメントテストの結果に基づいた習熟度クラス編成を行っており、特定の科目では少人数制の上位クラスはあるが、下位クラスはない。愛知大学のケースのように少人数制が上位より下位クラスに有効であるのなら、本学部においても少人数制の下位クラスを検討する価値がある。また、和洋女子大学のように特定年度のテスト結果を授業方針に反映させていないので、プレースメントテストの結果の有効活用について英語担当者間でさらに考えていきたい。

### 3. G-TELP について

次に、本学部でプレースメントテストとして使われている G-TELP (General Tests of English Language Proficiency) についての説明をする。G-TELP は Grammar、Listening、Reading & Vocabulary の 3 つのセクションがあり、各セクションの問題数は 20 問 (各 100 点満点)、合計 300 点満点のテストである。Grammar は Level 2~4 の 3 レベル、その他のセクションは Level 1~4 の 4 レベルがあり、レベル 4 の難易度が一番低い。本学部では、2012 年から 2016 年の 5 ヶ年間、Grammar、Reading & Vocabulary は Level 3 を、Listening は Level 4 を選択している。G-TELP のホームページによると Level 3 は「日常生活の限られた範囲の表現方法を用いて、ネイティブと簡単なコミュニケーションができる (Basic English in Normal Communication)」、Level 4 は「形式的な表現を用いて、ネイティブと簡単なコミュニケーションができる (Basic English in Simple Communication)」と設定されており、テストの信頼係数は 0.84 (Cronbach  $\alpha$  使用) (吉田、2009) <sup>(4)</sup> である。

### 4. 調査目的

2012 年度から 2016 年度の 5 ヶ年間における入学生が入学直後に受けた G-TELP のスコアの推移を調査することにより、学部全体、および各学科の学生の英語力の変化を把握し、今後のカリキュラム、教科書選定、授業の改善に向けての資料の 1 つとすることである。

### 5. 調査方法

#### 5. 1 調査対象

2012 年度から 2016 年度の 4 月上旬に実施された G-TELP を受験した入学生のスコアを調査対象とした。基本的には新入生全員の受験が奨励されているが、若干名の学生がなんらかの理由で受験していない。各年の受験者数は表 1 の通りである。

表1 新入生の G-TELP 受験者数 (各年度 4 月上旬実施)

	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年
遺伝子工学科	85	75	85	73	101
生物工学科	91	84	75	81	92
食品安全工学科	73	78	78	78	85
システム生命科学科	93	80	73	77	85
人間工学科	88	78	87	84	87
医用工学科	51	52	59	52	60
合計	481	447	457	445	510

## 5. 2 分析手順

各年度の学部全体、そして各学科の入学生の入学時の英語能力を調べるために、入学直後に実施された G-TELP のスコアの平均点、最高点、最低点、中央値、標準偏差を算出し、5 年間の推移を調べる。

## 6. 調査結果

調査結果は次の通りである。

### 6. 1 生物理工学部全体

2012 年度から 2016 年度の 4 月上旬に実施された G-TELP の結果は以下の通りである (グラフ 1~5、表 2~6)。ヒストグラムを見ると、ほぼ正規分布しており、毎年合計点が 126 点から 150 点の学生が一番多く、次に多い得点帯は 2015 年を除くと 101 点から 125 点である。また、Grammar(GRM)、Listening(LST)、Reading & Vocabulary(RDG)の各セクション、および合計点の平均点、最高点、最低点、中央値、標準偏差も算出した。

2012 年度の結果と 2016 年度の結果を比べると、合計点の平均点は 3 点ほど伸びている。これは顕著な変化であるとは言えないかもしれないが、合計点の中央値は 120 点台から 140 点台へと大幅に上昇している。

グラフ 1 2012 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果

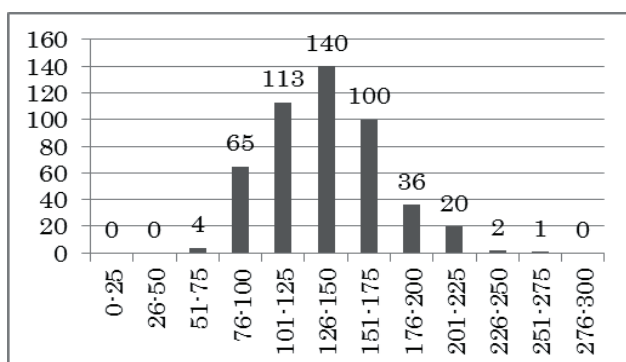
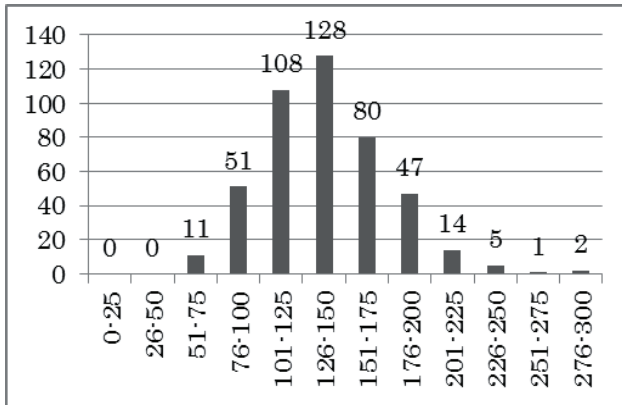


表 2 2012 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果

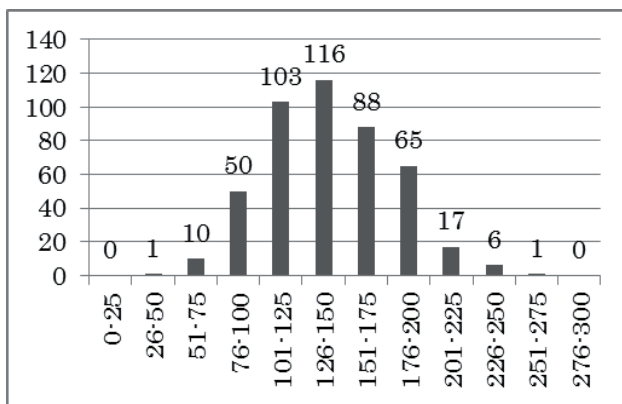
	GRM	LST	RDG	合計
平均	51.3	45.5	40.4	137.1
最高点	95	90	83	253
最低点	5	10	8	72
中央値	50	45	38	125.5
標準偏差	18.1	11.8	14.6	33.3

受験者数：481 名

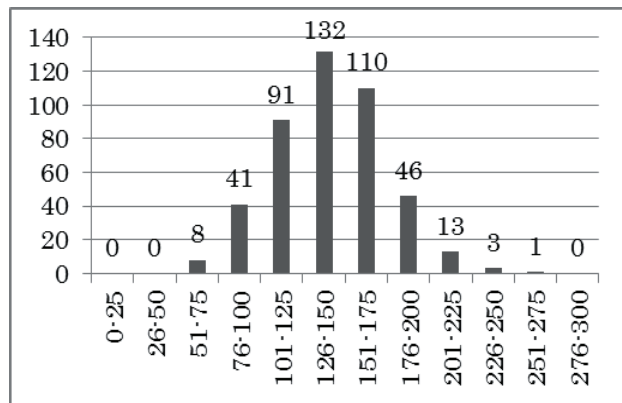
グラフ 2 2013 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果



グラフ 3 2014 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果



グラフ 4 2015 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果



グラフ 5 2016 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果

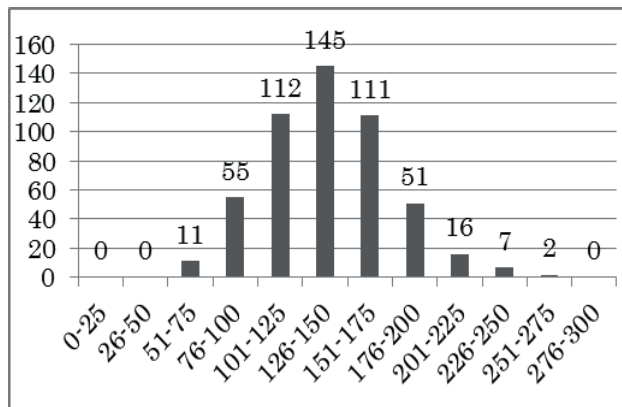


表 3 2013 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果

	GRM	LST	RDG	合計
平均	52.2	44.4	41.3	138.0
最高点	100	90	92	282
最低点	10	10	4	59
中央値	50	45	38	135
標準偏差	17.4	13.9	15.3	36.3

受験者数：447 名

表 4 2014 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果

	GRM	LST	RDG	合計
平均	54.7	45.2	41.8	141.7
最高点	100	85	92	258
最低点	10	10	0	46
中央値	55	45	42	140
標準偏差	18.4	13.7	15.2	36.8

受験者数：457 名

表 5 2015 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果

	GRM	LST	RDG	合計
平均	55.4	43.7	42.3	141.5
最高点	100	90	88	273
最低点	5	5	4	57
中央値	55	45	42	142
標準偏差	17.5	13.2	15.5	33.3

受験者数：445 名

表 6 2016 年度生物理工学部新入生 G-TELP 結果

	GRM	LST	RDG	合計
平均	53	44.7	42.4	140.1
最高点	100	85	96	266
最低点	10	10	4	52
中央値	50	45	42	140
標準偏差	18.4	13.2	16.0	35.8

受験者数：510 名

## 6. 2 学科別

生物理工学部の各学科別の結果は次の通りである。

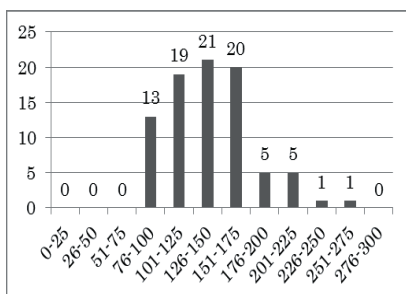
### 6. 2. 1 遺伝子工学科

2012年度から2016年度の4月上旬に実施されたG-TELPの結果（遺伝子工学科新入生）は以下の通りである（グラフ6～10）。平均点、最高点、最低点、中央値、標準偏差はAppendix 1を参照されたい。

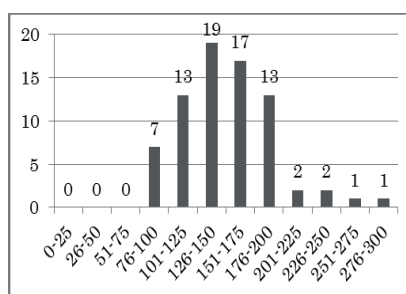
遺伝子工学科においては、2012年度から2014年度は一番多い得点帯が126点から150点であったのが、2015年度と2016年度は151点から175点の得点帯に移行している。合計点の標準偏差は2013年（39.5）をピークに、少しずつではあるが年々小さくなっており、2016年度は33.1であった。また、2016年度は126点から150点と151点から175点の2つの得点帯に全体の6割程度（101人中62人）の学生の点数が集中した。

合計点の平均点は2012年度が137.1点、2013年が150.8点、2014年度が152.9点、2015年度が148.6点、2016年度が152.0点であった。また、中央値も2012年度のみが130点台であり、それ以降は150点台である。多少の上下変動があるが点数は上昇傾向にある。

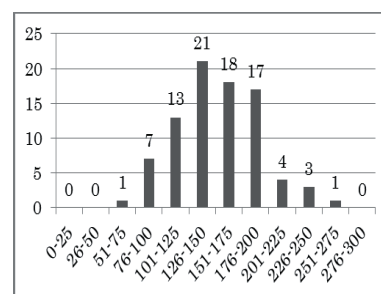
グラフ6 2012年度・遺伝子工



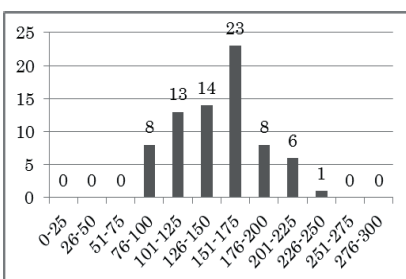
グラフ7 2013年度・遺伝子工



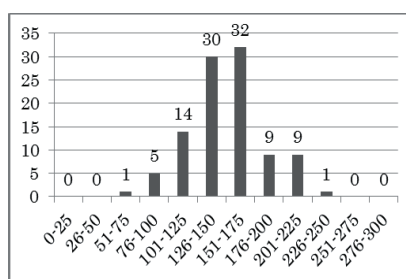
グラフ8 2014年度・遺伝子工



グラフ9 2015年度・遺伝子工



グラフ10 2016年度・遺伝子工

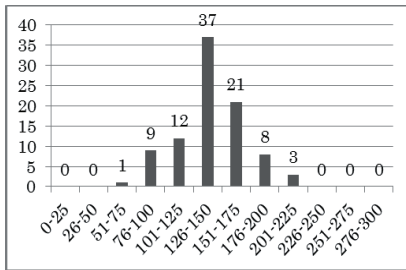


### 6. 2. 2 生物工学科

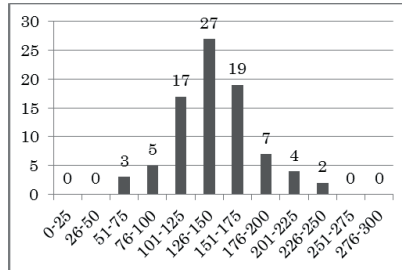
2012年度から2016年度の4月上旬に実施されたG-TELPの結果（生物工学科新入生）は以下の通りである（グラフ11～15）。平均点、最高点、最低点、中央値、標準偏差はAppendix 2を参照されたい。

生物工学科は、2014年度の平均点151.1点をピークに、ここ2年間は下降傾向にあり、2016年度入学生の平均点（139.1点）はこの5ヶ年間で最も低かった。点数のばらつき具合が広がり、最低点（57点）、最高点（266点）であった。特にGrammarセクションの平均点（52.2点）が低く、それが2016年度の平均点に影響を及ぼしている。

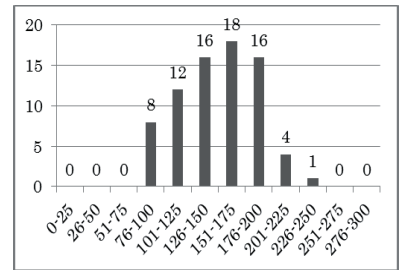
グラフ 11 2012 年度・生物工



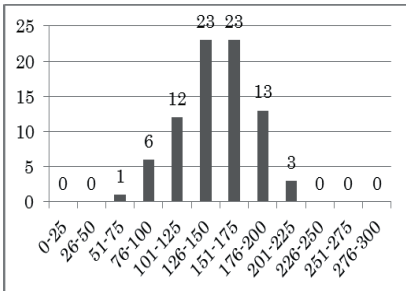
グラフ 12 2013 年度・生物工



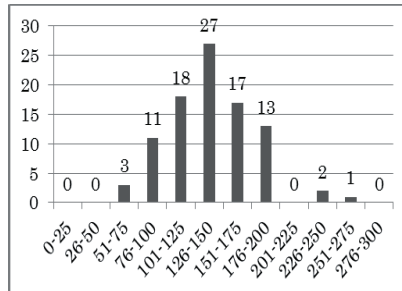
グラフ 13 2014 年度・生物工



グラフ 14 2015 年度・生物工



グラフ 15 2016 年度・生物工

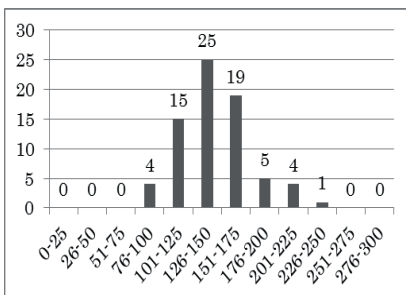


6. 2. 3 食品安全工学科

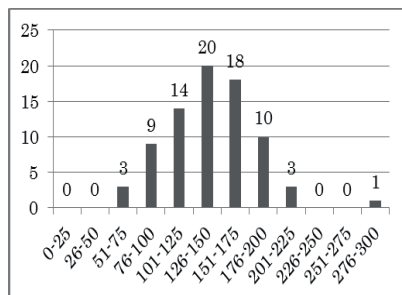
2012 年度から 2016 年度の 4 月上旬に実施された G-TELP の結果（食品安全工学科新入生）は以下の通りである（グラフ 16～20）。平均点、最高点、最低点、中央値、標準偏差は Appendix 3 を参照されたい。

本調査に使用した 1 番古い資料である 2012 年度（145 点）から平均点は下降傾向にあり、2016 年度の平均点は 137 点で、この 5 年間では一番低い結果となった。中央値においても同様である。2016 年度のみが 1 番多い得点帯が 101 点から 125 点であり、その他の年度は 1 つ上の 126 点から 150 点の得点帯であった。2015 年は 101 点から 200 点の得点帯に全体の約 8 割が集中し（78 名中 63 名）、標準偏差が 27.6 と 2012 年度から 2016 年度の 5 ヶ年間でどの学科よりも小さく、学生の英語力の差が小さかった年といえる。

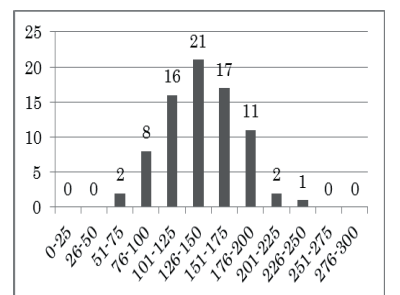
グラフ 16 2012 年度・食品安全工



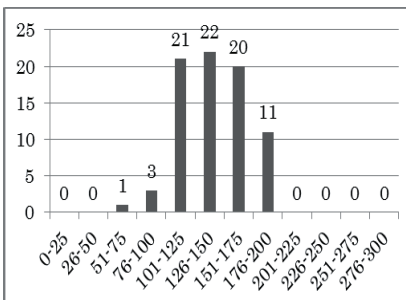
グラフ 17 2013 年度・食品安全工



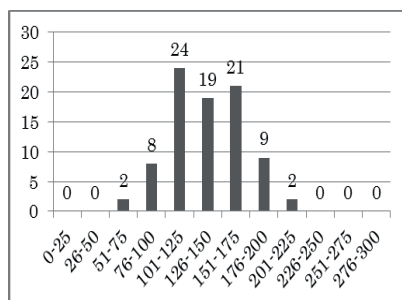
グラフ 18 2014 年度・食品安全工



グラフ 19 2015 年度・食品安全工



グラフ 20 2016 年度・食品安全工

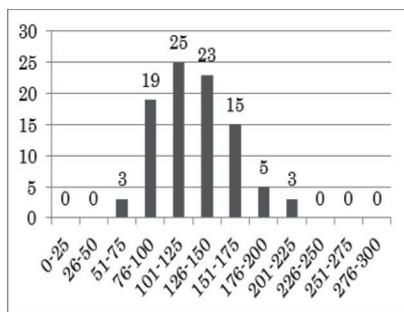


#### 6. 2. 4 システム生命科学科

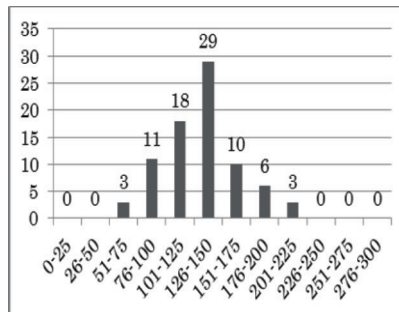
2012年度から2016年度の4月上旬に実施されたG-TELPの結果（システム生命科学科新入生）は以下の通りである（グラフ21～25）。平均点、最高点、最低点、中央値、標準偏差はAppendix 4を参照されたい。

2012年度から2016年度の5年間で平均点と中央値の上り下がり繰り返されている。1番多い得点帯も同様である。2012年度と2013年度にはいなかった226点以上の高得点者が、ここ3年間は若干数ではあるがいる（2014年度と2015年度は1名ずつ、2016年度は2名）。

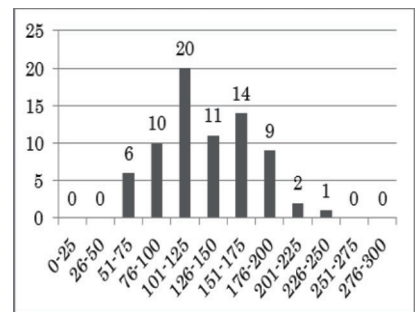
グラフ 21 2012年度・システム



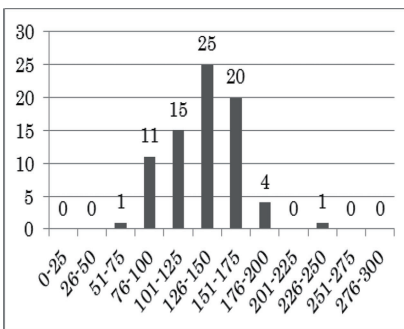
グラフ 22 2013年度・システム



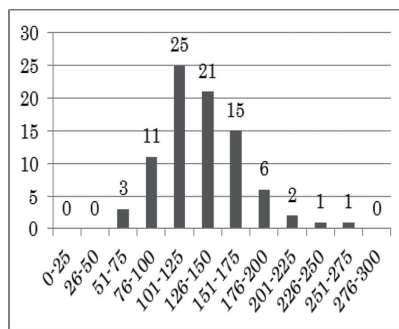
グラフ 23 2014年度・システム



グラフ 24 2015年度・システム



グラフ 25 2016年度・システム

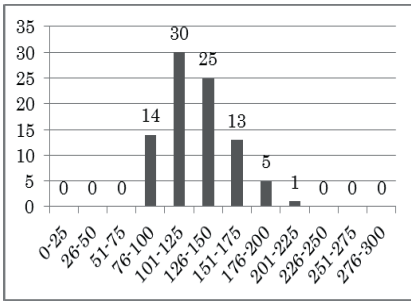


#### 6. 2. 5 人間工学科

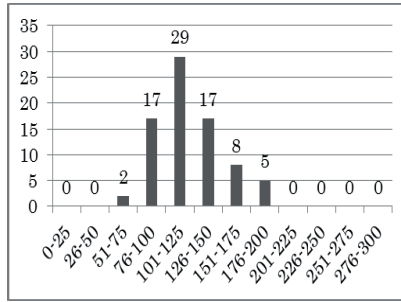
2012年度から2016年度の4月上旬に実施されたG-TELPの結果（人間工学科新入生）は以下の通りである（グラフ26～30）。平均点、最高点、最低点、中央値、標準偏差はAppendix 5を参照されたい。

2016年度の平均点（131.8点）が過去5年間で最も高かった。最も低かった2013年度（121.7点）と比較すると約10点上昇している。2012年度と2013年度は101点から125点の学生が多かったが、2014年度以降その傾向に変化が見られ、126点から150点の学生数が多くなっている。他学科と比較すると、201点以上の高得点者が少ないのが特徴である。

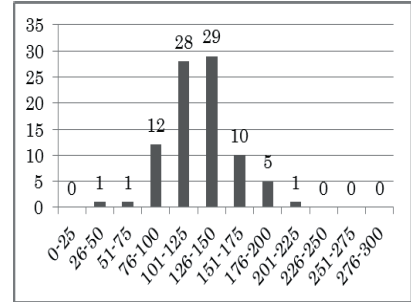
グラフ 26 2012 年度・人間工



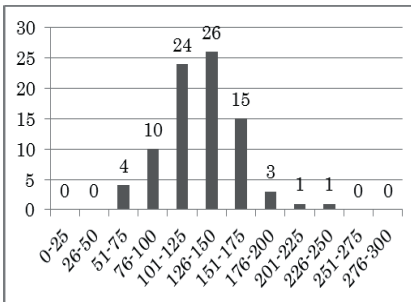
グラフ 27 2013 年度・人間工



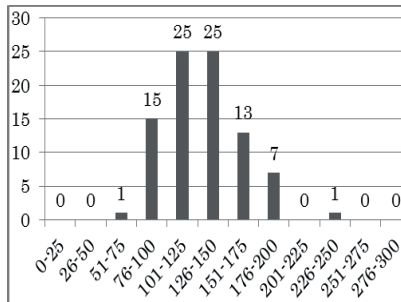
グラフ 28 2014 年度・人間工



グラフ 29 2015 年度・人間工



グラフ 30 2016 年度・人間工

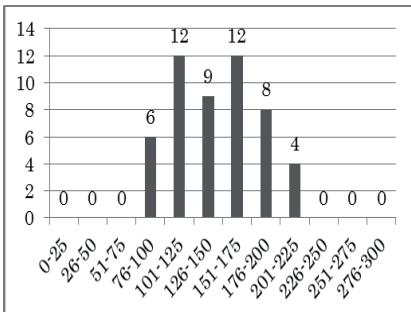


6. 2. 6 医用工学科

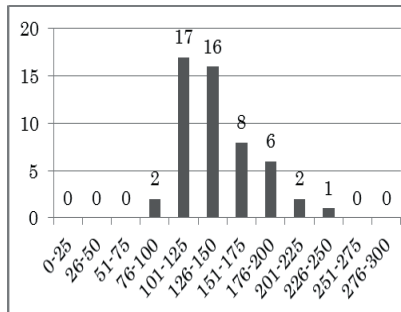
2012 年度から 2016 年度の 4 月上旬に実施された G-TELP の結果（医用工学科新入生）は以下の通りである（グラフ 31～35）。平均点、最高点、最低点、中央値、標準偏差は Appendix 6 を参照されたい。

2012 年度は 101 点から 125 点の得点帯と、151 点から 175 点の得点帯の 2 つが 1 番多く、全員が 76 点から 225 点の間であった。2013 年度は 101 点から 150 点の 2 つの得点帯に全体 52 名の中の約 63% の 33 名が集中した。2014 年度以降は 126 点から 150 点の得点帯が 1 番多く、そこをピークとした山型のヒストグラムとなっている。2012 年度から 2013 年度は全員が 76 点から 250 点の間であったが、2015 年度からは若干数ではあるが 51 点から 75 点の学生や、251 点以上の学生が見られるようになり、学生層の広がりが見え始めている。

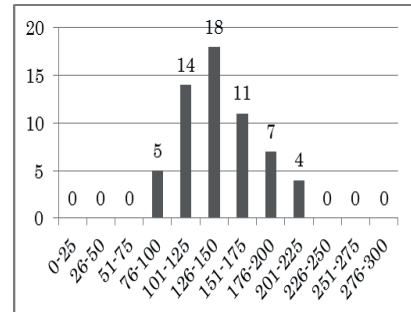
グラフ 31 2012 年度・医用工



グラフ 32 2013 年度・医用工

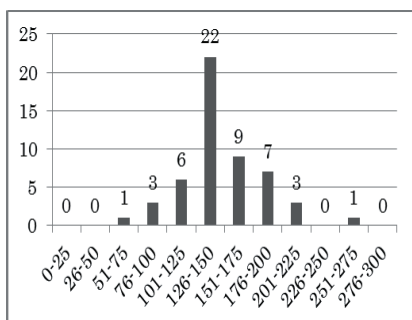


グラフ 33 2014 年度・医用工

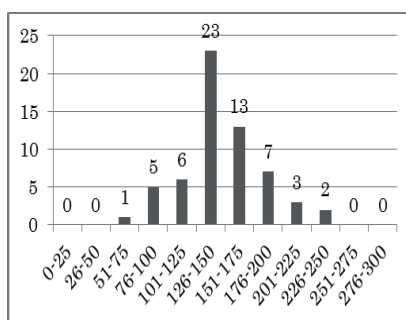




グラフ 34 2015 年度・医用工



グラフ 35 2016 年度・医用工



## 7. 考察

各学科の G-TELP の平均点は 121.7 点（2013 年度・人間工学科）から 152.9 点（2014 年度・遺伝子工学科）間で、TOEIC のスコアに換算すると、どれも 300 点から 350 点<sup>3</sup>内である。この点数は G-TELP ホームページの他テストとの相関表によると、英語検定<sup>4</sup>の 3 級レベル（中学卒業レベル<sup>5</sup>）であり、準 2 級レベル（高校中級レベル）には達していない。つまり、生物理工学部の新入生の入学時の平均的な英語レベルは概ね中学卒業レベルから高校初級レベルぐらいであり、平均点を下回っている学生の中には中学卒業程度の英語力に満たない相当数の学生がいるということになる。また、TOEIC プログラム DATA & ANALYSIS 2016（国際ビジネスコミュニケーション協会<sup>6</sup>）によると、大学生の TOEIC 平均点が 443 点、理・工・農学系の大学生の平均点が 425 点と報告されているので、これらの点数をかなり下回っていることがわかる。

これらの現状を鑑みると、現在の習熟度別クラス編成やカリキュラム、教科書の選定の見直しの必要性があると思われる。特に、ほぼ全ての 1 年生が受講している総合英語 1（前期）・総合英語 2（後期）、基礎英語 1（前期）・基礎英語 2（後期）では、同じメインテキスト<sup>5</sup>を使用しているが、基礎英語を受講している各学科の下位約 15 人程度<sup>6</sup>の英語力は中学卒業レベルには到達していないと思われ、彼らの英語力に見合ったテキスト選定が必要であろう。この点に関しては 2015 年度に非常勤講師を対象に行った使用テキストに関するアンケートにおいても指摘を受けており、2017 年度にはテキストの変更を検討中である。

今後、基礎英語レベルの学生が増加するようであれば、基礎英語のクラスも総合英語の上位クラス<sup>7</sup>のように少人数制にしたり、集中的に基礎英語力をつける特別な期間や講義を設けたりするなど、なんらかの対策が必要である。しかし、現在の教室数、教員数、時間割編成の問題などの実務的な制約を考えると、困難であることが予想される。

本調査では英語のプレースメントテストの結果の推移を調べたが、他の科目のプレースメントテストの結果の推移も気になるところである。また、指定校推薦、センター入試、一般入試など、入学に至った入試形態とプレースメントテストの得点との関連性を今後の課題とし調査を続けていきたい。

3. G-TELP 日本事務局からの資料より。http://www.g-telp.jp/about/a003.html#a-01

4. 英語検定には 1 級（大学上級レベル）から 5 級（中学初級レベル）まで、7 つの級がある。http://www.eiken.or.jp/eiken/

5. 現在は、総合英語と基礎英語のクラスは同じメインテキストを使用しているが、リスニングと TOEIC 用のテキストは異なるものを使用している。

6. 2016 年度は、各学科の学生の約 15 名程度が基礎英語を受講しており、クラスは 2 学科合同の計約 30 名のクラス編成となっている。

7. 2016 年度は、総合英語の上位クラスは 1 クラス 18 名の少人数クラスであり、中位以下のクラスは約 35 名のクラスである。

## 参考文献

- (1) G-TELP ホームページ <http://www.g-telp.jp/>
- (2) 石原知英 (2012) 愛知大学名古屋校舎 2011 年度 Reading における選抜クラス編成の結果と課題—TOEIP IP テストスコアおよびアンケートの分析—、言語と文化：愛知大学語学教育研究室紀要、第 54 巻 No.27、53-62、愛知大学
- (3) 河内山有佐 (2010) 新入生の英語能力と入試形態および動機づけに関する調査、和洋女子大学紀要、第 50 集、93-102、和洋女子大学
- (4) 吉田弘子 (2009) 英語プレイスメントテスト分析—言語テストの観点から—、大阪経大論集、第 60 巻第 2 号、93 - 103、大阪経済大学
- (5) 日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/eiken/>
- (6) 国際ビジネスコミュニケーション協会、TOEIC プログラム DATA & ANALYSIS 2016、東京、国際ビジネスコミュニケーション協会 [http://www.toeic.or.jp/corpo/about/data/toeic\\_material.html](http://www.toeic.or.jp/corpo/about/data/toeic_material.html)

## Appendix 1 2012 年度～2016 年度遺伝子工学科新入生 G-TELP 結果

&lt;2012 年度&gt; 受験者数：85 名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	52.7	45.6	41.8	137.1
最高点	95	75	83	253
最低点	20	10	8	79
中央値	50	45	42	137
標準偏差	19.5	13.6	15.4	37.8

&lt;2013 年度&gt; 受験者数：75 名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	56.6	47.7	46.5	150.8
最高点	100	90	92	282
最低点	25	10	17	79
中央値	55	45	46	150
標準偏差	18.0	14.9	16.9	39.5

&lt;2014 年度&gt; 受験者数：85 名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	59	48.8	45.0	152.9
最高点	100	80	92	258
最低点	10	25	0	63
中央値	60	45	46	152
標準偏差	18.8	11.9	18.6	39.2

&lt;2015 年度&gt; 受験者数：73 名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	57.8	45.9	44.9	148.6
最高点	100	70	79	237
最低点	20	20	12	87
中央値	55	50	46	153
標準偏差	17.8	13.3	17.3	36.0

&lt;2016 年度&gt; 受験者数：101 名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	56.0	48.8	47.0	152.0
最高点	100	75	88	230
最低点	20	15	12	64
中央値	60	50	46	151
標準偏差	18.1	12.3	14.7	33.1

## Appendix 2 2012年度～2016年度生物工学科新入生 G-TELP 結果

&lt;2012年度&gt; 受験者数：91名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	53.6	47.4	40.8	141.7
最高点	90	90	79	223
最低点	5	25	12	75
中央値	55	45	42	140
標準偏差	17.2	12.1	13.4	31.1

&lt;2013年度&gt; 受験者数：84名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	54.2	45.8	42.1	142.1
最高点	90	80	83	238
最低点	10	15	8	62
中央値	55	45	42	140.5
標準偏差	18.1	13.0	15.6	35.6

&lt;2014年度&gt; 受験者数：75名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	58.4	46.3	46.4	151.1
最高点	90	80	79	226
最低点	25	15	12	76
中央値	55	50	46	153
標準偏差	17.2	13.0	15.1	35.8

&lt;2015年度&gt; 受験者数：81名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	58.3	45.6	44.1	148.1
最高点	95	85	75	221
最低点	25	20	17	75
中央値	55	45	42	148
標準偏差	17.6	13.9	14.8	32.7

&lt;2016年度&gt; 受験者数：92名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	52.2	44.6	42.3	139.1
最高点	100	85	96	266
最低点	20	15	4	57
中央値	50	45	38	136
標準偏差	18.6	13.2	18.1	38.5

## Appendix 3 2012年度～2016年度食品安全工学科新入生 G-TELP 結果

&lt;2012年度&gt; 受験者数：73名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	53.4	48.1	43.5	145.0
最高点	100	80	75	237
最低点	10	10	12	59
中央値	50	45	42	142
標準偏差	16.6	11.9	14.8	30.1

&lt;2013年度&gt; 受験者数：78名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	53.8	45.3	41.4	140.5
最高点	100	90	92	282
最低点	15	10	12	63
中央値	50	45	42	137.5
標準偏差	19.1	14.2	13.9	38.3

&lt;2014年度&gt; 受験者数：78名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	53.3	46.0	41.6	140.9
最高点	100	85	92	258
最低点	10	10	0	46
中央値	55	45	42	143
標準偏差	17.8	14.3	13.0	36.0

&lt;2015年度&gt; 受験者数：78名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	57.0	42.5	42.4	141.9
最高点	100	70	83	196
最低点	5	10	12	58
中央値	55	40	42	144
標準偏差	17.9	11.9	13.7	27.6

## &lt;2016年度&gt; 受験者数：85名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	52.0	43.6	42.1	137.8
最高点	90	70	71	202
最低点	10	10	17	67
中央値	50	45	42	133
標準偏差	18.0	12.4	13.4	32.2

## Appendix 4 2012年度～2016年度システム生命科学科新入生 G-TELP 結果

## &lt;2012年度&gt; 受験者数：93名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	47.0	42.8	36.9	126.7
最高点	95	75	75	210
最低点	5	15	12	72
中央値	45	45	38	125
標準偏差	19.1	10.8	14.1	32.2

## &lt;2013年度&gt; 受験者数：80名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	49.9	43.6	39.0	132.5
最高点	90	80	79	214
最低点	15	15	8	67
中央値	50	42.5	38	134.5
標準偏差	15.7	14.3	14.9	33.1

## &lt;2014年度&gt; 受験者数：73名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	51.5	43.2	38.1	132.7
最高点	95	80	83	248
最低点	10	10	4	58
中央値	50	45	38	127
標準偏差	20.7	14.9	15.7	41.6

## &lt;2015年度&gt; 受験者数：77名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	53.9	41.8	39.6	135.3
最高点	95	75	79	234
最低点	20	5	8	57
中央値	55	40	42	137
標準偏差	16.2	13.0	15.0	31.7

## &lt;2016年度&gt; 受験者数：85名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	50.2	41.3	40.4	131.9
最高点	100	75	83	258
最低点	20	10	12	52
中央値	45	45	38	130
標準偏差	17.6	14.4	16.5	37.5

## Appendix 5 2012年度～2016年度人間工学科新入生 G-TELP 結果

## &lt;2012年度&gt; 受験者数：88名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	47.5	43.4	37.4	128.3
最高点	80	65	79	206
最低点	10	10	12	77
中央値	50	45	38	125.5
標準偏差	15.4	10.6	13.5	28.3

## &lt;2013年度&gt; 受験者数：78名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	46.0	39.7	36.1	121.7
最高点	95	75	75	200
最低点	20	15	4	59
中央値	45	40	38	117
標準偏差	15.8	13.1	13.8	31.1

&lt;2014年度&gt; 受験者数：87名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	52.0	40.6	37.3	129.9
最高点	90	85	62	201
最低点	15	10	12	46
中央値	50	40	38	128
標準偏差	17.0	14.0	11.6	29.4

&lt;2015年度&gt; 受験者数：84名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	48.6	42.6	38.6	129.7
最高点	85	85	79	241
最低点	15	10	4	62
中央値	45	42.5	38	127.5
標準偏差	15.9	12.8	14.4	31.7

&lt;2016年度&gt; 受験者数：87名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	51.4	42.6	37.8	131.8
最高点	95	65	88	243
最低点	15	10	4	69
中央値	50	45	33	131
標準偏差	18.4	11.3	15.8	33.6

## Appendix 6 2012年度～2016年度医用工学科新入生 G-TELP 結果

&lt;2012年度&gt; 受験者数：51名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	56.2	46.4	44.0	146.5
最高点	95	70	83	220
最低点	25	20	17	83
中央値	55	45	42	141
標準偏差	19.4	10.6	15.7	36.3

&lt;2013年度&gt; 受験者数：52名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	53.6	44.7	43.8	142.0
最高点	85	75	75	235
最低点	30	15	17	88
中央値	52.5	42.5	42	134
標準偏差	14.8	13.0	15.0	32.8

&lt;2014年度&gt; 受験者数：59名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	54.0	46.8	42.4	143.2
最高点	100	80	75	211
最低点	20	20	17	77
中央値	55	45	42	138
標準偏差	18.0	12.7	14.0	31.8

&lt;2015年度&gt; 受験者数：52名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	58.7	44.4	46.0	149.0
最高点	95	90	88	273
最低点	10	25	4	64
中央値	55	45	46	146.5
標準偏差	17.8	14.1	17.9	36.9

&lt;2016年度&gt; 受験者数：60名

	GRM	LST	RDG	合計
平均	56.5	47.2	44.9	148.6
最高点	100	75	83	240
最低点	15	15	17	67
中央値	55	50	42	145.5
標準偏差	19.7	14.7	15.2	36.1

英文抄録

Analyses of Placement Test Scores  
of the First Year Kindai University Faculty of B.O.S.T. Students

Yumi Hasegawa<sup>1</sup>

This paper analyzes the results of General Tests of English Language Proficiency (G-TELP) as a placement test given to the incoming freshmen from 2012 to 2016. The average score of the Faculty of Biology-Oriented Science of Technology (B.O.S.T.) in 2016 increased by 3 points in comparison with in 2013 and the central value in 2013 which had been in the 120s rose to the 140s in 2016. It is a remarkable increase. However, the average English proficiency level has hovered between the junior high school graduate level and the senior high school entry one. It means there are a considerable number of students who do not fully understand English at a junior high school level and it suggests the critical need for supporting them.

Key words : English Placement Test, G-TELP

---

1. Faculty of Biology-Oriented Science and Technology, General Education Division, Kindai University, Wakayama 649-6493, Japan